

こども版

# みしまとまこと



フジム

『みしまとまこと』のあんないにな



photo: Keiji Iwamoto

大岡信(おおおかまこと)

1931~2017

## 大岡信さんってどんなひと？

大岡信さんは詩人です。自分で感じたことや考えたこと、この世界のふしぎを、ことばで表現する人を「詩人」といいます。大岡さんのしごとは「詩」をつくることでした。

大岡さんは「ことば」がだいすきで、たいせつにしました。形がないものや見えないものでも、「ことば」にすると伝えられるし、「ことば」によって想像の世界へはばたくことができるからです。

## ★えほん

### 『おふろばをそらいろにぬりたいな』

ルース・クラウス/文 モーリス・センダック/絵 大岡信/訳 岩波書店 1979年

大岡さんが、えいごのえほんを、にほんごにしたよ。  
じぶんのまわりが、こんなだったらいいなと空想がひろがるおはなし。  
絵は『かいじゅうたちのいるところ』の作者センダックがかいているよ。

### 『サンタクロースの辞典』

グレゴール・ソロタレフ/画と文 大岡信/訳 朝日新聞社 1995年

大岡さんが、フランスごのえほんを、にほんごにしたよ。  
読めば読むほど、ふしぎなサンタクロース、サンタのイメージがわかるかも！

## ★ししゅう

### 『朝の頌歌』

大岡信/著 葉祥明/絵 銀の鈴社 1989年

大岡さんが10代のこどものころにつくった詩から、50歳をすぎた大人になってからつくった詩まで、いろいろな作品があつめられている本。  
「詩集」というよ。

## ★そのほか

### 『星の林に月の船』

大岡信/編 柴田美佳/さし絵 岩波書店 2005年

声に出して読んでみるとたのしい和歌や俳句をあつめた本。  
すきなことばがみつかるかも！

### 『おとぎ草子』(新版)

大岡信/現代語訳 梶山俊夫/さし絵 岩波書店 2006年

めでたいはなし、こわいはなし、ふしぎなはなし…  
むかしからつたわる、おとぎばなしをあつめた本。  
きみがしている一寸法師や浦島太郎と、  
ちょっとちがうかもしれない。



大岡さんの本が三島市内の  
小学校図書館を巡回しました。

## まことさんの本を よんでみよう



大岡さんは、世界中の詩や、短歌、俳句、  
絵や音楽についても、そのすばらしさを  
「ことば」をつかってたくさんの人たちに  
わかりやすくしょうかいしました。  
国語の教科書にのっている「連詩」は、  
ことばをつかって人と心をつなげるあそびで  
大岡さんがひろめました。  
これらのことがみとめられて、三島市の  
名誉市民になっています。

## 第4回 大岡信さんお誕生月の催し 「こども版 みしまとまこと」

編集部：ことばのたね実行委員会

発行日：2023年2月16日

発行：三島市産業文化部 文化振興課

〒411-8666 静岡県三島市北田町4-47

TEL: 055-983-2756

e-mail: bunka@city.mishima.shizuoka.jp

※このパンフレットは、2022年2月に発行した「みしまとまこと 詩人・大岡信と三島をめぐるハンドブック」の内容をもとに、こども向けに作成したものです。



# まことさんの詩を よんでみよう

わたしは月にはいかないだろう

わたしは月にはいかないだろう  
わたしは領土をもたないだろう  
わたしは唄をもつだろう

飛び魚になり

あのひとを追いかけよう

わたしは炎と洪水になり

わたしの四季を作るだろう

わたしはわたしを脱ぎ捨てるだろう  
血と汗のめぐる地球の岸に――  
わたしは月にはいかないだろう

※ルビは編集部による

みんなは、月にいてみたいと思う？  
もし宇宙に行くことができたなら、うれしい？  
わくわくする？それともこわいかな？  
どうして、この「わたし」は月にはいかないと言っているのだろう。  
そして「わたし」は、月にはいかずに何をしたいと考えているのだろう。  
この詩には小室等さんというミュージシャンが曲をつけて、すてきな歌にもなっているよ。

水底吹笛

三月幻想詩

ひようひようとふえをふかうよ

くちびるをあをくぬらしてふえをふかうよ  
みなどこにすわればすなはほろほろくづれ  
ゆきなづむみづにゆれるはきんぎよぐさ  
からみあふみどりをわけてつとはしる

ひめますのかげ――

ひようひようとあれらにふえをきかさうよ

みあげれば

みづのおもてにゆれゆれる

やよひのそらの かなしさ あをさ

しんしんとみみにはみづもしみいつて

むかしみたすぬしやうきゆうのつめたいゆめが

けふもぼくらをなかつたのだ

うつすらともれてくるひにいのらうよ

がらすぎいくのゆめでもいい あたへてくれと

うしなつたむすうののぞみのはかなさが

とげられたわづかなのぞみのむなしさが

あすのぞみもむなしからうと

ふえにひそんでうたつてゐるが

ひめますのまあるいひとみをみつめながら

ひとときのみどりのゆめをすないうつし

ひようひようとふえをふかうよ

くちびるをさあをにぬらしふえをふかうよ

※ルビは編集部による

むかしの書き方だからむずかしいかもしれないけれど、ぜひ声に出して読んでみて！  
どんなことが頭の中に思い浮かんだ？  
この詩のタイトルは「水の底で笛を吹く」という意味。水の底ってどんな場所なんだろう。  
そこで「ひようひよう」と吹く笛はどんな音なんだろう。笛を吹いているのはだれ？どんな気持ちでいるのだろう。